

2015年5月、アジアで2度目の世界理学療法連盟学会がシンガポールで開催される。今後、アジアは、グローバリゼーションの名のもとで、物品・人・サービス・資本・情報の移動の自由度が向上し、大きく変化していくことが予想されている。今すぐに、日本および日本人理学療法士が、外国で働く機会が増えることはないと思われるが、国際化が進むなか、周辺諸国を知ることで自らを見直すこともできるし、周辺諸国の発展から学ぶところも多いと思われる。

本特集では、日本が所属する Asia Western Pacific 地区に注目し、現状を理解するとともに今後について展望し、日本の理学療法のさらなる発展および進むべき岐路の参考になるような内容にしたい。

### ■シンガポールの理学療法—理学療法のために大きな夢をもつ小さな国 (Celia Tan 論文)

世界理学療法連盟 (WCPT) 学会が2015年5月にシンガポールにて開催される。本稿では、シンガポール理学療法士協会会長の Celia Tan 氏に WCPT 学会の紹介をしていただくとともに、シンガポールにおける理学療法の現状についてご執筆いただいた。

### ■アジアの高齢化と医療・福祉問題 (小林義文, 他論文)

アジア地域は過去50年間で人口が約3倍になる一方、早くから人口置換水準を割り、人口転換を終えた国がある。高齢化の倍加期間は日本の24年に対し、シンガポールや韓国、タイはそれ以上の進展が予測される。アジア諸国の社会保障制度は脆弱なまま高齢化を迎える。当地域のなかで最初に少子高齢社会に突入し、その対応策を模索してきた日本の経験は他の国々の参考となる部分が多い。

### ■タイの理学療法—現状と今後 (岩田研二論文)

途上国のイメージが強いタイだが、2004年に「メディカル・ハブ構想」を掲げ、医療観光 (medical tourism) を推進してから、外国人富裕層を顧客とし、高度な医療設備を完備した病院が、質の高い医療サービスを提供している。一方で、依然、地域間格差、所得間格差が大きく、理学療法士数の少なさからも一部の私立病院を除いて適切なりハビリテーションを受けられない場合も多い。

### ■オーストラリアの理学療法—現状と今後：日本人理学療法士の可能性 (三木貴弘論文)

オーストラリアの理学療法と日本人理学療法士の海外進出の可能性について述べる。オーストラリアの理学療法は日本とは異なる面が多々あり、基本的には日本よりも待遇面、環境面で恵まれている印象である。しかしながら日本人理学療法士はオーストラリアでも十分に通用する力をもっている。ぜひ言語をはじめとするさまざまな問題を克服して日本人理学療法士が国境を越えて活躍することを願っている。それが日本の理学療法の環境や知名度を向上させることにもつながるはずである。

### ■ニュージーランドの理学療法—現状と今後 (青柳壮志, 他論文)

ニュージーランドの理学療法は100年もの長い歴史を有し、特に整形外科理学療法を中心に発展してきた。しかしながら、日本社会同様に国内の少子高齢化が進むにつれ、社会から求められる理学療法士の役割が傷害後の治療だけでなく傷害・疾病の予防へと広がりつつある。本稿では、ニュージーランドの理学療法について現状と今後の見通しをまとめ、さらに日本人理学療法士の活動のチャンスと課題について述べる。

### ■特別企画：アジアの現状と日本への期待 (高橋哲也, Celia Tan, 内山 靖)

シンガポール理学療法士協会会長の Celia Tan 氏、日本理学療法士協会副会長の内山靖氏、本誌編集委員の高橋哲也氏が、シンガポールの理学療法の特徴やトピックスについて語り合った。また、シンガポール理学療法士協会、日本理学療法士協会がこれまでに行ってきた他国への技術支援の経験から、アジア共通の話題について話し合った。本企画は、第49回日本理学療法学会大会の開催に合わせ、Celia Tan 氏が WCPT 学会の広報にいらしたときに収録されたものである。